

Freude

vol. 16-43 2023.9.27.wed

チケット状況変遷	S	A	B	合計
販売席数→	698	76	40	814
7/1~9/13 予約	489	30	33	552
9/20 予約数	10	4	1	15
予約合計	499	34	34	567
残	199	42	6	247

さあ、練習あと2回！ 10/4(水)天王寺区民、そして10/8(日)大淀（本番説明します）
準備オッケーですか？練習もチケットも悔いの無いように！ステージ衣装も今のうちに確認しておこうね！

明日やねん
ええチケット
予約せよな！

郵便振替の
用紙も
いれよな！

チケット預け

を利用しよう。

封筒は、
「封筒は、
たてがき
たてがき」

みもこ

封筒は、
たてがき
たてがき

有 人
と
ま
い
り

うら

5席
2枚

① 受取人、預け人の名前を記入する

a. 中央に受取人の名前を書く
ふりがなをふる。(どんな簡単な名前でも！)

b. 左下方に預け人のパート、名前をフルネームで書く。

② チケットを入れ、封筒を開ける

c. 座席と枚数を確認し、封筒に入れ封をする

d. 裏面に、〇席〇枚と書く(良いほう)

③ チケットはいつでもお預りします。
担当 → 吉田

④ 演奏会当日、チケット預け(お切り)時間は
団長の指示に従って、速やかに願います！

注 係は中身の確認はしません。チケットの席、枚数は各自で確認ししっかり封を(2面)して下さい。

プログラム掲載予定「ごあいさつ」「60年の歩み」です。当日はみんな読む時間がないかも、なので出しますね！

ごあいさつ (10/12 プログラム掲載予定)

本日は大阪フロイデ合唱団演奏会にお越し下さいまして誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。
今宵演奏いたします「レクイエム」は、モーツァルトの遺作であり集大成ともいえる作品。合唱好きにとって憧れの曲であり、何度歌っても新たな美しさと難しさを発見します。フロイデでは今回7回目。1986年、1990年、1996年、2004年、2012年、2016年とそれぞれいろんな意味で団の節目となる年に演奏してまいりました。2020年のコロナ禍から4年、歌う喜びの大切さを改めて見つめよう、と、今回の演奏曲目に選びました。

その練習のさなか7月、フロイデ合唱団創立時からの指揮者・外山雄三先生が旅立たれました。アマチュアがオーケストラと一緒に演奏するなんて考えられなかった1963年、第1回目の演奏会を外山先生のご指導のもと開催、その後約50年に渡りご指導いただきました。外山先生から叩き込まれた、演奏会のために「できることを全部やる」姿勢は、古くからの団員はもちろん、新しい団員にも深く強く受け継がれています。その姿勢に恥じないよう、モーツァルトがホールいっぱい響くように、祈りが空高く届くように、今宵の演奏に全力を尽くします。

今回は4年ぶりに「マスクなし」でステージに立ちます。演奏会を開催できることの幸せをかみしめ、精一杯演奏いたします。そして更に精進してまいります。

こんごとも、大阪フロイデ合唱団の活動にご支援ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023年10月12日 大阪フロイデ合唱団 団長 吉田 泉

合唱団 60年の歩み (10/12 プログラム掲載予定)

・大阪フロイデ合唱団の歩みは、1962年「大阪労音による『第九』合唱団員募集」から始まります。

大阪労音（現在の大阪新音）は主に音楽鑑賞運動を中心に行ってきましたが、1963年2月にベートーヴェン「第九」演奏会開催を企画するにあたり、合唱団員を広く募集することとしたのです。

1962年 7月「第九」練習開始。合唱指揮は大阪芸大教授・櫻井武雄先生、指揮は大阪フィル指揮者・外山雄三先生。（肩書はいずれも当時）両先生には、以降、長きに渡りご指導いただきます。

1963年 2月、第1回「第九」演奏会開催。大阪フィルハーモニー交響楽団。フェスティバルホール。合唱団員470名。この成功により、さらに大合唱を続けていこう、という気運が高まります。

1965年 プリテン「戦争レクイエム」、ベートーヴェン「第九」。この演奏会の経験は大きな自信に。

1966年 合唱団の名称を「フロイデ合唱団」とし、正式に合唱団活動が始まりました。年末の第九演奏会に加え、1970年からはサマーコンサートも開催。年2回の演奏会が定着していきます。

サマーコンサートでは、古今の大曲の他、平和へのメッセージを含めた、創作曲もとりあげました。

また合唱指揮には、櫻井先生のほか関西で活躍する先生方もお願いするようになりました。合唱団員時代から外山先生のもと研鑽を積んだ亀井正比古先生は、1971年から合唱指揮者となりました。

1985年 フロイデ合唱団は大阪新音から独立し、自主運営の合唱団となりました。

（大阪新音では、「大阪新音フロイデ合唱団」を組織し、活動されています。）

12月、独立後の初公演となる「第九」演奏会。外山雄三指揮 大阪フィルハーモニー交響楽団
翌年7月の、独立後初サマーコンサートでは、モーツァルト「レクイエム」を演奏しました。

1991年 サマーコンサート「カルミナ・ブラーナ」は、亀井正比古指揮で演奏しました。

この年から夏公演は、外山先生と亀井先生、ほぼ交互に指揮をお願いすることとなりました。

外山雄三先生には、2010年までご指導いただきました。先生の指揮での「第九」は1963年～2010年に50公演にのびます。夏には、三大レクイエム（ヴェルディ、モーツァルト、フォーレ）や、ベートーヴェン「荘厳ミサ」、バッハ「マタイ受難曲」、ヘンデル「メサイア」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」など数々の演奏を行いました。

また、活動は大阪にとどまらず、平和へのメッセージを含めた外山雄三先生の新曲の際は、日本各地に演奏に行ったこともありました。共演者では、ソリストを東京や仙台、韓国からお招きすることもありました。

2011年 大阪・関西に根差した活動を目指し「大阪フロイデ合唱団」と改称。年2回公演ではなく、一つの曲を、時間をかけて練習するスケジュールで演奏会活動を行うこととしました。

以降、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪チェンバーオーケストラ、とともに、ザ・シンフォニーホール、フェスティバルホール、住友生命いずみホールで演奏会を行っています。特に最近の、「ザルツブルク時代のモーツァルト」作品のシリーズや、「ハイドン・後期6大ミサ」シリーズでは、大阪チェンバーオーケストラとともに、より緻密で丁寧な音楽づくりを目指しています。

今年61年目、これまでにはいくつかの大きな転換点がありました。合唱をとりまく環境も大きく変化しました。しかし時代は変わっても、創立時からの姿勢「うたいたい人ならだれでも」「最高の音楽会を目指す」「できることは全部やる」は一貫しています。指揮者・亀井正比古先生、発声指導・田中由也先生、ピアニスト・真壁泰江先生、のご指導のもと、今後も関西の音楽家と共に、最高の音楽会を創りあげることを目指し、音楽のすばらしさを広め、歌う仲間、聴く仲間を増やす活動を続けてまいります。